

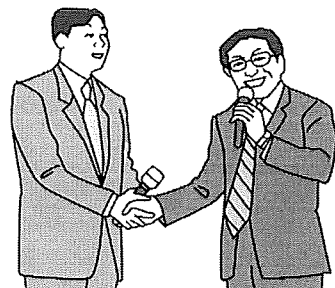
主観名	読科名	めあて	授業日	実施しようと思うこと	事後の振り返り
A 主として自分自身に関すること	(1) 自覚、自律、 自信と責任		月 日		
			月 日		
	(2) 習慣、姿勢		月 日		
			月 日		
	(3) 個性の発見		月 日		
			月 日		
	(4) 希望と現実、 誇りとしるほ		月 日		
			月 日		
	(5) 知識の探究		月 日		
			月 日		

「決断！ 骨髓バンク移植第一号」

骨髓移植によって白血病患者の命を救うために、日本でも骨髓バンクの組織を作り出そうとボランティアの会員たちが奮闘する中、一人のドナー登録者が、血液の適合を告げられます。手術が近づくにつれ恐怖と使命感の間で心は揺れましたが、主人公は恐怖を乗り越え、骨髓の提供を決断します。日本初の骨髓バンク登録者による移植手術は成功します。

1991年、ついに日本骨髓バンクが誕生し、その数年後、全国集会で出会った患者とドナーは固い握手をして抱き合います。

悩みながらも自分の骨髓を提供した田中さんの姿から、人が互いに支えあって生きていくことや、自分や周りの人の生命を尊重することの大切さについて考えました。



田中さんと橋本さんが、がっしりと手をにぎり合い、固い握手をして抱き合い、確かめ合ったことはどのようなことだろう。

◇命の大切さ、感謝の気持ち、自分のしたことが無駄じゃなかったことを確かめ合った。

◇命のつながりを感じた。どちらも互いに生きているということを実感したんだと思いました。

◇「この人のおかげで生きている」「自分の行動でこの人は生きている」という互いの思いがつながった。

考えたこと・感じたこと

- ◆支え合うことの大切さがわかったので、簡単なことから助け合っていこうと考えました。
- ◆今は提供したい気持ちは大きいけれど、手術となると少し抵抗がある。いつか、提供できる思いでいっぱいになりたいと思います。自分がもしその病気になったとき、提供してくれた人にたくさんの感謝をするのと同じで、私は 人に感謝してもらえる人になりたい と思うからです。
- ◆命を守るには、たくさんの勇気がいるということが分かりました。自分に何ができるか考えていきたい。
- ◆「命は一人ひとり“1つ”しか持っていないもの」この言葉を大切に生活して、母からもらった1つの命を大切に生きていきたい と思いました。
- ◆一人ひとり命、体は1つしかないけど、勇気のある行動や強い意志などが人と人をつなげるきっかけかなと思った。視野を広げて、困っている人などを見つけて 力になりたい と思った。

命は、 生きて いる証	命は、 格別な もの	命は、 自分 の分身	命は、 一つ だけ	命は、 大切な もの	命は、 誰がどう することも できない、 一人一つの 名前のように	命は、 いろいろな 人の思いが つまっている	命は、 たった一つの もの	命は、 自分の気持ち に寄り添うもの	命は、 かけがえのない 大切なもの	命は、 かえられない	命は、 大きな勇気	命は、 全て	命は、 何よりも大切な もの	命は、 代わりのないもの	命は、 タネ	命は、 すばらしい	命は、 尊いもの	命は、 私たち一人 ひとりの個性	命は、 自分の心	命は、 なくてはならない もの	命は、 自分にとって一番 大切なもの	命は、 やがてきえるけれど 永遠に残るもの	いのち
-------------------	------------------	------------------	-----------------	------------------	--	---------------------------------	---------------------	--------------------------	-------------------------	---------------	--------------	-----------	----------------------	-----------------	-----------	--------------	-------------	------------------------	-------------	-----------------------	--------------------------	-----------------------------	-----

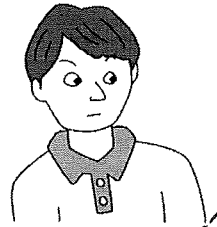
↑いのちの詩を作ったクラスもありました。それぞれのおもう“いのち”を大切に、生きていきたいですね。

「ごめんね、おばあちゃん」

主人公の「ぼく」は、耳が遠くなり身体も不自由になって何かと失敗する祖母のことを、母や妹とともに「家族の心配の種」として、祖母の気持ちを考えずにきつくあたってしまいます。そんな「ぼく」でしたが、祖母が骨折して入院したことをきっかけに、小さいころに優しく育ててくれた祖母の無私の愛情を思い出します。

病院のベッドで、別人のように弱々しくなった祖母が涙を流す姿を見て「おばあちゃん、ごめんね。」とつぶやいたとき、「ぼく」は何を感じていたのでしょうか。

「ぼく」の気持ちについて考えることを通して、家族の無私の愛情を受け止め、家族の一員として自分はどうかあるべきだろうか、を考えました。



考えたこと・感じたこと

- ◆いつもはおばあちゃんにつめたいし、あまりしゃべったりしないけど今日の授業で自分の態度を改めようと思った。いつもは「どう生きる」とかは考えないけど今日考えられたので、今日考えたことをしっかり考えて生きる。
- ◆家族に腹立つことめっちゃあるけど、それも自分たちのために言ってくれてるんだなあと分かったから、素直に言っていることを聞きたい。
- ◆してもらっていることに対して「ありがとう」という思いをしっかり伝えた方が良いと思いましたそして優しさで愛する心があればみんな「まる（○）」の気持ちでいれる！
- ◆中でも印象に残ったのはおばあちゃんが見返りを求めず家族のために頑張ろうとしてくれたことです。僕もこれからはだれかのために本気で尽くせるような人になりたいと思います。
- ◆自分が家族であったことの大切さやすごさ、一生懸命育ててくれたことへの感謝を忘れずに過ごしていく。一生懸命育ててもらった自分の命を大切にする。
- ◆家族に感謝し、大切に生きていきたい。失敗してもねたまず優しくする。

授業の終末で紹介した、相田みつをさんの「いのちのバトン」。

父と母で二人 父と母の両親で四人 そのまた両親で八人
こうしてかぞえてゆくと 十代前で千二十四人 三十代前では——？
なんと 百万人を越すんです
過去無量の いのちのバトンを受けついで いま ここ に 自分の番を生きている
それが あなたのいのちです
それが わたしのいのちです

あなたは「自分の番」を、どのように生きますか？

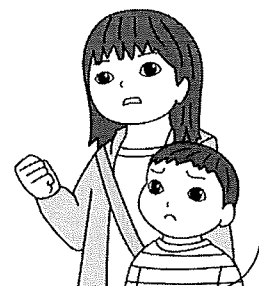
おうちの方へ

家族は、縁によって結ばれた最も基本的な社会集団であり、生活の基盤をなすものです。したがって、家族全員がお互いに信頼し、認め合って、家庭を築き上げることは、生きていくうえでとても大切なことです。中学生の時期には、次第に自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていこうとする「自律」への意欲が高まります。そのため、自分を支えてくれている家族の言動やしつけに反抗的になりがちです。ぜひご家庭で、家族それぞれが果たしている役割について話し合い、また逆に、お子さんの役割を振り返ったり家族関係を見直したりしながら、お子さんが家族の一員としての自分をより自覚できるように働きかけていただければ幸いです。

「二通の手紙」

今回は、「きまりについて考える」というテーマで考えました。情け深く人間味あふれる動物園の入園係「元さん」は、入園時間を過ぎたころにやってきた幼い姉弟を、「小学生以下の子供は、保護者同伴でなければならない」という園の規則を破って入園させました。閉門時間になっても姉弟は戻ってこず、二人の捜索が始まります…。数日後、元さんあてに、姉弟のお母さんからの感謝の手紙と、会社からの「懲戒処分」の通告という、二通の手紙が届いたのでした。

授業の中では、元さんが「2人の子供のことを考えて入園させたほうがよかった」のか、それとも「園の規則を守ったほうがよかった」のか、話し合いながら、＜思いやり＞と＜規則を守ること＞について考えました。



入園させた方がよかった

◇園の規則では守れないものを守ったから。

規則を守ったほうがよかった

◇入園はさせたいし、子供たちも喜んでくれていたけれど、させたらどちらにも罪悪感が残るし、親がいるのならまだしも、子供だけなので、万が一のことが起きたらいけないから。

考えたこと・感じたこと

- ◆守らないと危険だったり、周りに迷惑がかかったりすることからできたのが「きまり」だと思うので、守らないといけなかったと思います。今回の教材では何事もなかったけど、万が一のことを考えるとやはりしないほうがよかったと思うので、「きまり」を破るのではなく、自分にできることをやってあげたいです。
- ◆きまりを守ることは大切だけど、この場合、2人の子供のことを考えて入園させる気持ちも分かるので、難しいなと思いました。
- ◆元さんの行動は、100%正しいとはいいきれないが、子供たちや親御さんに喜んでもらったのでよかった。でも、決まりは決まりなので、もうちょっと配慮すればよかった。
- ◆「きまり」というのは何のためにあるかということ、人の命を大切にするため、周りの人たちがいやな思いをしないためなど、たくさんの理由があってあるのだと思います。
- ◆「きまり」は安全に過ごせるようにするものなのだと思います。決まりを守らないと、周りの人たちにも迷惑がかかるし、いやな気分になる人もいますから。
- ◆「きまり」というのは、命や人と人との関係を守ることというのが、「きまり」だと思います。どんなことでも「きまり」を守らなければならないと分かりました。
- ◆人によってかわるようなルールは、ルールじゃないし、そういうことが起こってしまったら、一回落ち着いて客観的に物事を考えられるようにしたいです。後先考えて動こうぜ。
- ◆「もしも」が頭に浮かんだら、その対策がない限り、必ず起こると思った方がいい。もしその「もしも」が起きたら、最初から頭にあったときのほうが、受けるダメージが大きいと思う。規則は全員を良い気持ちにさせるために作った物。それが「人のため」であることを忘れてはならないと思いました。

生活点検週間（L.C.W）について

1. 名称 L.C.W～目指せ3K～ （Life Check Week 3K…快適・完璧・切り替え）
2. 目的 ・様々な点検項目を意識し，更なる生活習慣の向上を目指す。
 ・中央委員と評議専門委員が中心となり，生活習慣の向上を呼びかけ，学年や学級でリーダーシップをとる。
3. 期間 令和元年 7月8日（月）～7月12日（金）

4. 内容

中央委員	あいさつ運動，呼びかけ
評議員	遅刻，ベル着点検 ※ベルの鳴り始めで点検。「机の上に教科書を置く」は点検しない。
環境委員	美化点検 ※環境委員が掃除場所（特別区域，トイレ含む）を点検。
文化委員	忘れ物点検 ※1人が1時間の中で1つ忘れ物をすれば「1」。1時間の中で1人が忘れ物を2つしても「1」。
体育健康委員	換気，服装点検 ※朝：靴下，色シャツ点検，呼びかけ
図書委員	各委員が記載したクラス集計表をもとに，学年集計表（各学年フロア）と全体集計表（職員室前）に記入。
放送委員	全体集計表をもとにお昼の放送で前日の結果を放送。

※期間中1つもポイントがなかったクラス（オールパーフェクト）は中央委員から表彰。

呼びかけ等，ご協力をよろしくお願い致します。